

平成29年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科 開講型)	研究科名	公共政策教育 部	カテゴリー	社会科学総合科目群	横断 区分	文理横断型				
授業科目名 (英訳)	行政システム (Administrative System)			講義担当者 所属・職名・ 氏名	公共政策教育部 教授・曾我 謙悟	開講 場所	総合研究2号館 公共第2RPG				
配当 学年	専門職 修士 博士後期	単位 数	2単位	開講年 度・開講 期	前期	曜時限	月5限 (16:30-18:00)	授業 形態	講義・ 演習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>行政学とは、政治学の一分野であり、行政機構の実態について社会科学の方法を用いて分析をしていく学問である。この講義では、とりわけ、現代日本の行政の実態を理解することを目的とする。</p> <p>学部段階で行政学を履修していない学生（あるいは履修していたがもう一度、復習をしようとする学生）を念頭におき、学部レベルの教科書を用いて、講義を行う。</p> <p>講義においては、教員の側から解説を行う形式をとらず、受講者が提示する論点について、教員が説明を加えていくことや、教科書に掲げている練習問題をグループワークで検討していく。</p>											
【研究科横断型教育の概要・目的】											
この講義で扱われる内容は、政府と社会・経済の関係を扱っており、社会科学部の様々な分野に関係する視点を提供するものである。特段の前提知識を履修要件としておらず、他研究科の学生の履修も可能な内容となっている。											
【到達目標】											
<p>行政学の基本的な視座や視角、分析の方法について理解する。</p> <p>現代日本の行政の実態について、基本的な知識を得る。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>講義内容は大きく分けて四部に分かれる。各部は四つのトピックから構成される。基本的には1回の講義で一つのトピックを扱うが、全体で14回に収まるよう、1回の講義で二つのトピックを扱う場合がある</p> <p>第1部 政治と行政</p> <p>第1章 政治と行政の関係</p> <p>第2章 日本における政治と行政の実態</p> <p>第3章 政治と行政の関係を規定する要因</p> <p>第4章 政治と行政の関係の帰結</p> <p>第2部 行政組織</p> <p>第5章 行政組織の形態</p> <p>第6章 日本の行政組織の実態</p> <p>第7章 組織形態を規定する要因</p> <p>第8章 組織形態の帰結</p> <p>第3部 マルチレベルの行政</p> <p>第9章 マルチレベルの行政：中央・地方関係と国際関係</p> <p>第10章 日本におけるマルチレベルの行政</p> <p>第11章 マルチレベルの行政を規定する要因</p> <p>第12章 マルチレベルの行政の帰結</p> <p>第4部 ガバナンスと行政</p> <p>第13章 ガバナンスの様態</p> <p>第14章 日本におけるガバナンスの変化</p> <p>第15章 ガバナンスの様態を規定する要因</p> <p>第16章 ガバナンスの様態の帰結</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											

授業計画に示した4部それぞれの終了時に課す小レポートの得点を基礎とする（評点の9割）.
講義における発言やグループワークの発表といった平常点を加味する（評点の1割）.

〔教科書〕

曾我謙悟 『行政学』（有斐閣）ISBN:978-4-641-12483-7 2013年

〔参考書等〕

その他

教科書に掲げられている参考文献リストを参照されたい.

〔授業外学修(予習・復習)等〕

毎回、教科書の1章（20から30ページ程度）を読み、疑問点や検討を深めたい点を考察しておくことが必要である.
4回に一度、小レポートが課される。関連する文献や資料を集め、整理した上で叙述を行うことを求める。

〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。